

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：24303

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22792264

研究課題名(和文) ネットワークが希薄な公営住宅におけるコミュニティカフェを活用した予防的介入研究

研究課題名(英文) Prophylactic international study using the community cafe in public housing with poor or relational network

研究代表者

春木 香苗(臼井香苗)(Usui, Kanae)

京都府立医科大学・医学部・講師

研究者番号：50432315

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：介入の対象となるK市において、以下の取り組みを実施した。地域包括支援センターに寄せられる相談内容を通じたニーズの把握と資源の集約、より効果的なネットワーク構築について共に検討、検討の結果をもとにネットワーク構築に必要となる取り組みについて検討し、実施また、対象となるK市内の特にコミュニティのつながりが希薄な地域であるU地区(府営住宅)において社会福祉協議会や自治会と合同の定期的な取り組みをスタートさせ、同地区内のソーシャルキャピタルの再構築に対する取り組みを開始した。今後は、同地区内に居住する高齢者を対象に、効果測定の調査を行う予定である。

研究成果の概要(英文)：The research had carried out the following approach in K city. Needs have been extracted from the content of the consultation to the Community General Support Center. The researcher cooperated with the person in charge, and examined a more effective network construction. A further approach was executed based on the result. The researcher cooperated with the social welfare council and neighborhood community association, and regular intervention was done to U area which has weak relationship among people in community.

We are looking to actually do some research for measuring the effect of intervention will be among the elder people in the community.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 地域・老年看護学

キーワード：ネットワーク 自治会 公営住宅 コミュニティカフェ ソーシャルキャピタル 予防的介入

### 1. 研究開始当初の背景

平成 12 年度から導入された介護保険制度は、平成 18 年度には施行後 5 年を経て、より介護予防に重点を置く改正がなされた。

介護保険制度の見直しの大きな柱のひとつが「予防重視型システムへの転換」である。介護保険の基本理念である「自立支援」をより徹底するために従来の「予防給付」を、対象者の範囲、サービス内容、マネジメント体制などを見直した「新たな予防給付」へと再編を行った。(厚生労働省)

平成 18 年度には、要支援・要介護状態となる前からの一貫的・継続的な介護予防マネジメント体制を整備するための中心的機関として「地域包括支援センター」が設置され、要支援 1・2 の区分に該当する対象者に対してサービス提供のマネジメントを実施している。

介護予防に関する包括的な支援を提供するために、地域包括支援センターの基本機能として、**共通的支援** **基盤構築** **総合相談支援** **権利擁護** **包括的・継続的ケアマネジメント支援** **介護予防マネジメント** の 4 つが求められている。しかし、施行後間もない制度であるために、現時点では対象者に直結するマネジメント業務に専念せざるを得ない状況にあり、特に総合的相談支援等業務に分類されている「地域におけるネットワーク構築業務」に関しては、義務付けられているものの暗中模索の状態である。地域に暮らす高齢者に対する介護予防的取り組みをより効果的なものにするために、各地域における介護予防ネットワークの構築は急務とされている。

介護予防とネットワークに関連する研究に関しては、「日本の高齢者 介護予防に向けた社会易学の大規模調査 高齢者の健康と家族との関連性 世帯構成・婚姻状況・夫婦関係満足感」末盛慶,近藤克則(ほか 2 名)公衆衛生 69 巻 7 号 583-587 (2005 年)、「地域在住高齢者の社会関係の特徴とその後 2 年間の要介護状態発生との関連性」吉井清子,近藤克則(ほか 2 名)日本公衆衛生雑誌 52 巻 6 号 456-467 (2005 年)、「後期高齢者のふれあい活動への参加経緯について 住民主体の介護予防活動を通して」松岡広子 訪問看護と介護 9 巻 8 号 614-618 (2004 年)、「地域高齢者における介護予防を目指した昨日訓練事業の試み」河野あゆみ,金川克子(ほか 3 名)日本公衆衛生雑誌 49 巻 9 号 983-991 (2002 年)などの先行研究があるが、これらはいずれも高齢者個人あるいはそれを取り巻く特定のサポート資源と、ネットワークまたはソーシャルネットワークとの関連における介護予防に関する研究である。

地域包括支援センターに求められるネットワーク構築については、社会的なシステムであり、より包括的で、さらにそれぞれの地域でその特性と目的に合致したものであることが求められていることから、現場で直接対

象者に接している包括支援センターの職員が取り組みへの困難さを感じていることが推測され、そのことに関する介入は緊急課題であると考えられる。

### 2. 研究の目的

本研究は、現在地域における包括的で継続的、かつ効果的な介護予防の取り組みのために急務とされている地域包括支援センターが行うネットワーク構築について実践的研究をおこない、その地域のニーズに合致した効果的なネットワーク構築に関して検討していくことを目的とする。

### 3. 研究の方法

研究全体はミクストメソッドを用いる。質問紙による調査と、平成 23 年度に自治会が行った調査結果とを突合し、分析を行う。また、インタビュー調査を行い、質的分析を行う。

該当する自治会に所属する 65 歳以上の高齢者全数を調査対象とする。調査票は配布留置法とする。民生委員、自治会役員の協力を得て手渡しし、後日研究者が自治会から提供を受けた名簿に沿って訪問回収を行う。当該地域の住民の自治会所属率は 100%であり、回収率の確保の目的で訪問回収とする。

インタビュー調査はコミュニティ・カフェの積極的利用者および運営協力者を対象として、コミュニティ・カフェの別室もしくは該当者宅、あるいは自治会集会所にて行う。場所や日時は該当者の利便性を鑑みて個別に調整を行う。

質問紙調査は該当する自治会に所属する 65 歳以上の者全数(約 700 人)を対象とする。

インタビュー調査は質的検討のインタビュー対象者は、コミュニティ・カフェの積極的利用者および運営協力者を対象とし、分析が理論的飽和に達するまでの人数を対象人数とする。飽和期待人数としては 30~50 名を予定している。

質問紙調査の測定項目は 基本属性(年齢、性別、居住年数、身長・体重、婚姻・同居者、職業、経済的ゆとり) コミュニティ・カフェの利用(利用頻度、利用理由) 社会的交流(Lubben social network scale) 健康状態(主観的健康感、現病、身体症状、老健指揮活動能力指標、介護度等) 心理状態(LSIK、SF-8、CES-D)とする。測定方法は自記式質問紙による。

平成 23 年度に自治会が行った調査結果については、居住棟および生年、身長を元に今回の質問紙との突合を行う。該当する調査結果の利用の許諾については、自治会に諮ると同時に、自治会長の承諾を得る。さらに依頼文中に明記することで対象者に周知を行うこととする。

インタビュー調査はコミュニティ・カフェの積極的利用者および運営協力者を対象として、インタビューガイドを用いた半構造的

面接を実施する。質問項目は、対象者の基本属性およびコミュニティ・カフェの利用や支援を行う理由、その経緯等である。インタビューは1人あたり1時間程度の半構造的面接で、面接内容は対象者の同意を得た上で録音し、その他気付いたことなどをフィールドノートに記録する。分析は質的研究の分析方法の1つであるグラウンデッドセオリーアプローチを用いる。

インタビュー調査は研究主担者が行い、その分析には確実性の確保のため、データの分析は複数の研究者で行い、エキスパートのスーパーバイズを受けながら行うこととする。

#### 4. 研究成果

介入の対象となるK市内でも特にコミュニティのつながりが希薄な地域であるU地区（公営住宅）において、社会福祉協議会や自治会と合同の定期的な健康相談会の取り組みを継続し、同地区内のソーシャルキャピタルの再構築に対する取り組みを行っている。

当該年度に至るまでの取り組みは以下の通りである。

1)自治会における役員会議に出席し、住民や自治会役員より寄せられる相談内容から地域における課題を抽出し、取り組みの糸口を探索する。2)関係機関に寄せられる相談内容や対象者の直接的ニーズ、関係機関が把握している間接的ニーズの集約することで、地域のネットワークづくりの資源を集約し、不十分な部分を明確化する。3)上記を踏まえて、社会福祉協議会や関係機関職員、自治会役員と共通認識を構築し、より効果的なネットワーク構築について検討する。4)研究者が学会や研究会に参加、先駆的な取り組みの知見を得て、それを関係者と共有する。5)自治会及び社会福祉協議会が実施する恒例住民の見守りニーズ調査について、情報提供及び調査票の作成やデータ処理について協力する。6)自治会主催で民生委員やボランティア組織が協力して実施しているコミュニティ・カフェにおいて、定期的な継続した健康相談会の開催。

上記に於ける取り組みを踏まえて、平成25年9月16日の敬老の日に、高齢居住者全数を対象として、介入効果測定のための調査票の配布を行う予定であったが、前日及び当日における当該地域とその周辺地域への台風被害に伴い、調査票の配布が困難となったことが原因である。今年度での実施の方向で再度調整を行うとともに、測定方法の再検討をおこなったため、倫理委員会へ再申請をしているところである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

桂敏樹, 星野明子, 臼井香苗, 志澤美

保, 村上佳栄子, 藤本萌美, 細川陸也, 三宅慧, 西澤美香, "ヘルスケアタウン"プロジェクトの戦略と活動 ヘルスプロモーションとセーフティプロモーションによる健康で安全安心な街づくり, 健康科学, 2013; 8, 39-41, 査読あり

Toshiki Katsura, Norio Miura, Akiko Hoshino, Kanae Usui, Yasuo Takahashi, Seiichi Hisamoto, Visual recognition of the elderly concerning risks of falling or stumbling indoors in the home - comparison of visual attention points among elderly, middle aged and young individuals -, Journal of Rural Medicine, 2011; Vol.6, No.2.71-80, 査読あり

Akiko Hoshino, Kanae Usui, Toshiki Katsura, The development of a town of safety, security and health project in an area with a very high population aging rate - The activities of a community salon on a shopping street and their assessment -, Journal of Rural Medicine, 2011; Vol.6, No.2.65-70, 査読あり

星野明子, 桂 敏樹, 臼井香苗「まちづくり」の現場 超高齢化地域におけるソーシャルキャピタルの醸成 京都市古川町商店街に展開する「すこやかサロン」, 保健師ジャーナル, 2010; 66(2): 124-129, 査読なし

[学会発表](計14件)

(国外発表)

Akiko Hoshino, Kanae Usui, Kaeko Murakami, Miho Shizawa, 2. Strategy to Create New Social Capitals in Health Care Town Project in the Super-aging Area of a Metropolis, Kyoto, Japan, Asian American Pacific Islander Nurses Association 10th annual conference, March, 2013, Honolulu, USA.

Akiko Hoshino, Toshiki Katsura, Kanae Usui, Kaeko Murakami, Miho Shizawa, 1. Experience of participating in elderly support activities in urban areas, Asian American Pacific Islander Nurses Association 10th annual conference, March, 2013, Honolulu, USA.

Akiko Hoshino, Toshiki Katsura, Kanae Usui, Creation of Health Care Town through health promotion and safety promotion in the super-aging area of

a metropolis (1) Health Care Town In Kyoto Project, International Conferences in Community Health Care Nursing Research, 2011, Edmonton, Canada.

Akiko Hoshino, Toshiki Katsura, Kanae Usui, Creation of Health Care Town through health promotion and safety promotion in the super-aging area of a metropolis (2) Health Care Town In Kyoto Project, International Conferences in Community Health Care Nursing Research, 2011, Edmonton, Canada.

(国内発表)

志澤美保, 星野明子, 臼井香苗, 村上佳栄子, 西澤美香, 藤本萌美, 細川陸也, 三宅慧, 小田川敦, 石川信仁, 中川智子, 桂敏樹, 大都市超高齢化地域におけるヘルスケアタウン創生 粟田地域健康力アップ大作戦, 日本公衆衛生学会, 2013.

星野明子, 臼井香苗, 村上佳栄子, 志澤美保, 西澤美香, 藤本萌美, 細 陸也, 三宅慧, 小田川敦, 石川信仁, 中川智子, 桂敏樹, 大都市超高齢化地域におけるヘルスケアタウン創生 粟田健康街づくり会の戦略, 日本公衆衛生学会, 2013.

臼井香苗, 桂敏樹, 星野明子, 三橋美和, 村上佳栄子, 光井朱美, 金辻治美, 大 眞美子, 西田秀樹, 都市化が急速に進む地方都市における健康増進・食育推進計画 事業計画と評価, 日本公衆衛生学会, 2013.

桂敏樹, 星野明子, 臼井香苗, 三橋美和, 村上佳栄子, 光井朱美, 金辻治美, 大 眞美子, 西田秀樹, 都市化が急速に進む地方都市の健康増進・食育推進計画の戦略 地域別実践戦略, 日本公衆衛生学会, 2013.

谷口奈穂, 桂敏樹, 星野明子, 臼井香苗, 地域在住の前期高齢者と後期高齢者におけるQOL関連要因の比較日本公衆衛生学会, 2013.

角田英恵, 桂 敏樹, 星野明子, 臼井香苗, 新興住宅地の開発がすすむ地域における高齢者のコミュニティ感覚と心の健康の関連, 日本公衆衛生学会, 2012.

谷口奈穂, 桂 敏樹, 臼井香苗, 星野明

子, 地域高齢者の活力ある生活支援を目指して 社会的交流を含むQOL関連要因の検討、日本公衆衛生学会, 2011.

坂元佑衣, 桂 敏樹, 星野明子, 臼井香苗, 過疎地域に暮らす高齢者の通院手段に関する検討, 日本公衆衛生学会, 2010.

谷口奈穂, 桂 敏樹, 星野明子, 臼井香苗, 地域在住の前期高齢者と後期高齢者におけるQOL関連要因の比較 社会的交流を含む検討, 日本公衆衛生学会, 2010.

〔図書〕(計2件)

北 徹監修, 横出正之, 荒井秀典編, 臼井香苗他:健康長寿学大事典 QOLからEBMまで.西村書店, 2012.

桂 敏樹, 星野明子編, 臼井香苗他:はじめの一步からやさしく進める かんたん看護研究.南江堂, 2012.

6. 研究組織

(1)研究代表者

臼井香苗 (USUI Kanae)

研究者番号: 50432315